

令和3年11月開館予定 福岡市早良南地域交流センター



早良区南部(早良区四箇田団地隣)に待望の交流センターの建設が始まりました。ホールや図書館、チャイルドルームなども設備され、地域コミュニティの活性化、文化・スポーツの振興、地域福祉の向上が期待されます。

質問 ところがバス路線は国道に集中しており南部からバスを利用して行くのは難しい。交通アクセスが解決されなければ誰のための交流センターかわからない。交通手段を確保し、市民の利便性を図り、多くの市民が利用できる施設になることを望む。

答弁 バス事業者と精力的に協議を行うとともに他の施設や地域で行っている交通手段確保の取り組みを参考に対策をしっかりと検討していく。

交流センターイメージ図



多目的ホール



市民ロビー



図書館分館(開架コーナー)

災害時の一時避難所と収容避難所について要望

H30年、福岡市にも豪雨による避難指示が出されました。しかしながら、避難施設は周辺の住民を収容できる広さが無かったり、避難所としての整備が十分でなかったなど数々の問題点が浮き彫りになりました。安全に、避難

住民を収容できる施設の確保、更に水や食料の備蓄も必要ですが毛布などの寝具や、災害情報を得るためのテレビや電話なども早急に整備するよう要望しました。



住宅地にも出没するイノシシ対策について

質問 耕作放棄地が増えるに従い、放棄地を巣とするイノシシの頭数が増え続けています。農作物の被害だけでなく住宅地に進出するまでになりました。生活被害や人的被害が心配されるなか、早急にイノシシ被害対策に取り組むべきではないか。

答弁 イノシシ被害防止対策として、新たにイノシシ対策担当課を設け、地元猟友会の協力をいただき、糸島市など周辺自治体と連携をとりながら捕獲活動に努めていく。



- ・議会運営委員会 理事
- ・常任委員会 経済振興委員会 委員 (経済観光文化局、農林水産局、港湾空港局、農業委員会)
- ・交通対策特別委員会 委員
- ・九州大学移転跡地対策協議会 副会長
- ・政令市木材利用促進議員連盟 副会長
- ・福岡市森林・林業・林産業活性化促進議員連盟 理事長

平成最後の統一地方選挙で市議三期目を務めさせていただきます。

委員会等役職も変わりましたが、所属に偏ることなく目を向け取り組んでいきたいと考えております。

大原やすおの議会報告

決算特別委員会で質問する大原議員

市長の答弁

令和元年10月 決算特別委員会

決算特別委員会… 本市の予算が適正かつ妥当に使われ効果があったかを審査する委員会。予算が不適切なものや非効率的なものがあれば施策の廃止や修正等をして来年度の予算案に反映させる。

地球温暖化対策における林業の重要性について

「全国木材利用促進連盟」の副会長を務めている大原議員にとって地球環境にも影響を及ぼす森林づくりは大きな課題。多面的機能を発揮する森林は、近年の地球温暖化、豪雨や干ばつ、河川や海水などにも影響し私たちの衣食住に大きくかかわっています。

「国連の気候行動サミット」で16歳の少女、グレタさんは「あなたたちは空っぽの言葉で、私の夢と子ども時代の夢を奪い去った。」と世界の各国首脳を前にして涙を浮かべ語気を強めてCO₂削減を訴えました。

質問 福岡市は二酸化炭素と地球温暖化問題をどのようにとらえ、どのような取り組みをしているのか。

答弁 「福岡市地球温暖化対策実行計画」に基づき削減目標を定め、家庭部門、業務部門、自動車部門の温室効果ガス排出量の削減に重点をおいた施策を実施している。更に、市民・事業者の取り組みを促進、庁内推進体制を整備ししっかりと取り組んでいく。

質問 地球温暖化による異常気象により世界各地で災害が発生している。このまま二酸化炭素などの温室ガスが増え続けると危機的な事態になるのではないかと。子どもや孫たち世代に問題を先送りすることは許されない。私たちが現状を認識し責任を持って、温暖化阻止に取り組んで行かなくてはならない。しかし温暖化防止や自然災害防止、水資源の確保など多面的な機能を持つ森林は現在荒廃している。

林業関係の平成30年度決算額は約2億8千万円(本市の一般会計の僅か0.03パーセント)、このままだと荒廃森林の整備に30年以上かかる計算になる。林業施策に、もっと目を向けていただくことを切に望む。林業施策の取り組みについて市長のご所見を伺う。

答弁 森林面積は本市面積の3分の1を占め、自然と都市が調和したコンパクトで住みやすい都市には森林資源を有効に活用していく必要がある。

森林資源は、大切な地域資源であり、林業活性化は地域の再生にもつながっていくと考えている。森林の有する多面的機能の発揮を図るとともに、都市型林業の創造に努めていく。



福岡市を見守る背振山系



〔那珂川市に令和元年竣工、福岡県最大の貯水量〕

五ヶ山ダムに救われた福岡市

令和元年は豪雨による被害が多かったため湯水は記憶が薄くなりましたが、6-7月湯水時、竣工したばかりのこのダムの貯留水により福岡市は給水制限なしに乗り切ることができました。

市はダム周辺の山林等を取得整備し「水源涵養機能」を高めています。